

観光英語（16）：長崎市大浦天主堂、出津教会堂、大野教会堂、 天草市崎津教会、島原市原城跡の総合案内板の英語

福島 一人

Tourism English (16) : The English Found on Signs Explaining the General Summarized Information of the *Ooura-tenshudou* [-cathedral], the *Shitsu-kyoukaidou* [-church] and the *Oono-kyoukaidou* in Nagasaki City, the *Sakitsu-kyoukai* [-church] in Amakusa City, and the *Hara-jou-ato* (remains of the Hara Castle) in Shimabara City

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

This paper, as a case study, examines the English found on signs in popular tourist sites, such as the *Ooura-tenshudou* [-cathedral], the *Shitsu-kyoukaidou* [-church] and the *Oono-kyoukaidou* in Nagasaki City, the *Sakitsu-kyoukai* [-church] in Amakusa City, and the *Hara-jou-ato* (remains of the Hara castle) in Shimabara City. The *Ooura-tenshudou* and the *Hara-jou-ato* themselves are now inscribed on the World Heritage List by UNESCO as the "Hidden Christian Sites in the Nagasaki and Amakusa Regions" and the other three are their components.

The signs discussed here are again those which indicate the general summarized information about these sites. If there are no such signs or if descriptions on such signs are thought to be inadequate, the writer's suggestions will be added.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7), (2017.1) and (2018.7).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)} 充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるであろう。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、2018年7月に世界遺産に登録された、長崎市の「大浦天主堂」、「出津教会堂」と「大野教会堂」、天草市の「崎津教会」、島原市の「原城跡」の「総合案内板」について検討を加える。尚、「大浦天主堂」、「原城跡」は、それ自体が世界遺産

に登録されており、他の3つは、世界遺産に登録された「大野集落」、「出津集落」、そして「崎津集落」の構成素である。

本稿で考察する案内板は、これまで執筆者が提案してきたものと同様、「包括的説明」を行う案内板（「総合案内板」）である。「大浦天主堂」、「出津教会堂」、「大野教会堂」、「崎津教会」、「原城跡」という表題の、現地で見られた案内板の説明は不十分と思えた。崎津資料館みなと屋（2017.8.1）など現地のリーフレットや、「大浦天主堂」横の「キリシタン資料館」内で見られた説明文などを参考に加筆を試みた。「崎津教会」について、現地の案内板は、日本語説明しか見られず、また特定箇所の説明が多い、つまり、「包括的」なものではなかった。現地のリーフレットなども参考にして日本語説明に加筆修正を加え、それに平行する英語説明の提案を行う。

2018年7月に世界遺産に登録されたばかりであるせいか、本稿で挙げる案内板は、福島（2017.7）、（2018.1）、（2019.1）で挙げた「古都京都」の世界遺産登録された名所の案内板のように、「世界遺産登録」、包括的説明を行う「本文」、「登録年月日」が整然と一枚の案内板にまとめられたものではなかった。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島（2015.7）、（2015.9）、（2016.7）、（2017.1）、（2018.7）で挙げた提案に従う。振り仮名は、「外海（そとめ）」の如く、漢字の横に記す。

現地が作成した案内板を引用する際、本文中のアンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。執筆者の提案部分は太字で記す。

尚、本稿執筆にあたり、2018年10月3日（水）にNHK総合・東京で放送された『歴史秘話ヒストリア』も参考にした。

本稿で説明の便宜上挙げる画像は執筆者自身が撮影したものである。

2. 大浦天主堂、出津教会堂、大野教会堂、崎津教会、原城跡の案内板

「大浦天主堂」と「原城跡」は、それら自体が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録された。他の3つは、世界遺産に登録された「出津集落」、「大野集落」、「崎津集落」の構成素である。「1549年のキリスト教伝来→1612年のキリスト教禁止→1873年のキリスト教禁止の高札の撤廃」の流れのなか、1612年の「キリスト教禁止」、1873年の「キリスト教禁止の高札の撤廃」が、「潜伏キリシタンの歴史」の開始と終了とされている。^{註2)} その間、1637年に「島原・天草の一揆」が起こり、禁教が強化された。尚、1873年の高札の撤廃後の現在も、日本独特のキリスト教信仰形態を維持している信者を「隠れキリシタン」と呼ぶ。

2.1 大浦天主堂

画像1の「大浦天主堂」は長崎駅前から路面電車で約10分、徒歩10分のところにある。

「大浦天主堂」は江戸時代の1864年に建設され、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に登録された集落の構成素である教会群と比べても最古である。

隣接する「旧羅典（らてん）神学校」内には、「大浦天主堂」だけでなく、「外海（そとめ）の出津集落（しつしゅうらく）」、「外海（そとめ）の大野集落（おおのしゅうらく）」、そして、「天

1



草(あまくさ)の崎津集落(さきつしゅうらく)、「原城跡(はらじょうあと)」の日本語と英語による、独立した案内板が見られる。それぞれ日本語、英語によるかなりの説明(英語説明は200語を超える。)がされている。^{註3)}

このことは、「大浦天主堂」が世界遺産登録された遺産群の中で代表格とされていると、推測させる。

2



画像2は、「大浦天主堂」の入場券売り場の直前で見られる。地図と「二十六聖人碑」の画像が挙げられている。2018年12月に撮影した。2015年8月に撮影したものは、日本語のみの簡略なものであった。

画像2について、日本語説明、英語説明共に不十分と感じられる。予算が許せば、韓国語、中国語の説明を別の案内板の中で記すことにし、日本語説明、英語説明を増やすべきであろう。段落の書き出しでは、日本語説明では1文字分、英語説明では3文字分スペースを空けることを提案する。

画像2の日本語説明は、以下の通りである。アンダーラインは、執筆者による。

国宝大浦天主堂

大浦天主堂はプチジャン司教の指導のもとに1865年2月19日に献堂式が行われた現存する日本で最古の教会です。1597年2月5日に殉教した日本二十六聖人に捧げられた教会で、殉教地の方向に向けて建てられました。

現在、殉教地である長崎駅前に位置する西坂には、二十六聖人を祈念する聖フィリッポ教会、および二十六聖人に関連する資料を収蔵した記念館が整備されており、日本のカトリックから公式巡礼地に指定されています。

画像2の英語説明は、以下の通りである。3段落6文、103語からなる。段落の始めは3文字分スペースを空けるべきである。アンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

Former Oura Cathedral

Oura Cathedral was constructed under the guidance of Bishop Petitjean, and is the oldest extant Christian

building in Japan.¹ Its dedication ceremony was held on the 19th February 1865.²

The Cathedral is dedicated to the Twenty-six Martyrs of Japan who were executed on Nishizaka Hill on the 5th February 1597.³ The Cathedral faces the site of their martyrdom.⁴

Nishizaka Hill, which is situated close to Nagasaki Station, is designated as an official site of Catholic pilgrimage.⁵ The Hill is home to the St. Philip Church, which is a memorial church to the twenty-six martyrs, and a museum which houses many precious Christian artifacts.⁶

日本語説明について、「国宝大浦天主堂」の記述順は、福島(2017.9)の「建長寺」で提案した案内板と、概ね同じである。「国による評価」→「歴史」→「現状」→「周辺の見所」と記述し、前3つを第一段落とし、「周辺の見所」を第二段落として、2段落で記述している。

一方、英語説明では、「国による評価」→「建築目的・状況」→「周辺の見所」と3段落に分け記述している。

日本語説明について、福島(2019.1)に準じ、「大浦天主堂」の文字サイズを大きくし、太字にすることを提案する。段落始め1文字分スペースを空ける。

本稿では、世界遺産に登録された理由と言われる、「東洋の奇跡が起こった場所」を副題として提案する。そして、加筆を加えながら、「国宝に指定され、世界遺産に登録されたこと」→「その理由」→「歴史」→「現状（建造物内・外の「売り）」→「周辺（西坂の丘）」と、段落を分け記述する。

画像2の日本語説明中の「現存する」は、「建設時と建物が全く変わっていない」と思われる可能性があるので削除する。

「潜伏キリシタンであることの告白」という重要な史実、「尖塔アーチの窓枠を有しているという外観上の見所」、「リブ・ヴォールドの天井、美しいステンドグラスの窓、現存する祭壇のマリア像など教会内部の見所」を加筆する。画像2の案内板のほかに、大浦天主堂横の「旧羅典（らてん）神学校」内^{註4}にも「大浦天主堂」という表題の案内板が見られた。加筆部分の参考にした。

「国による評価、世界遺産としての評価」→「歴史」→「現状」→「周辺」と段落分けし、記述することを提案する。追加提案部分を日本語説明では、赤字で記した。

画像1と屋内の「リブ・ヴォールト造りの天井」の画像を添付することを提案する。

国宝大浦天主堂 ——「東洋の奇跡」が起こった場所——

大浦天主堂は日本最古の教会です。国宝に指定されており、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された、2世紀ぶりに潜伏キリシタンと宣教師が出会い、新たな信仰の局面を迎えるきっかけとなった場所として知られています。

大浦天主堂は、1865年3月17日に数人の潜伏キリシタンが、天主堂のプティジャン司教を訪れ、先祖代々キリスト教信者であることを告白した場所として知られています。この潜伏キリシタンの告白は「東洋の奇跡」と言われました。その場所は保存されており、祭壇のイエスを抱いたマリア像は現存するものです。

大浦天主堂は1864年プティジャン司教の指導をもとに着工され、献堂式は（明治時代の始まりの約3年前）1865年2月5日に行われました。天主堂は1597年2月26日に西坂の丘で、処刑された日本の26殉教者に捧げられています。天主堂正面は4キロ程離れたこの殉教地に向けて建設されました。元は和様折衷の小さなものでしたが、1879年頃、現在の西洋ゴシック風の建造物に増改築されました。

1865年建設当初、正面上の銘板には潜伏キリシタンである日本人が認識することを期待し、漢字で「天主堂」と横書きで書かれました。現在の建造物では縦書きです。外観上は、尖塔アーチの窓枠を有することが、屋内では、リヴ・ヴォールト造りの天井（コウモリの翼状のアーチ型丸天井）、美しいステンドグラスの窓が、観光客の目を引きまします。

前述した長崎駅前に位置する殉教地である西坂の丘には、二十六聖人を祈念する聖フィリッポ教会、および二十六聖人に関連する資料を収蔵した記念館もあり、日本のカトリックから公式巡礼地に指定されています。1981年2月にローマ法王が訪れました。

画像2の英語説明は日本語説明に準じており、やはり、不十分と思える。

世界遺産としても評価されているので、韓国語や中国語の説明とは独立した案内板を設置し、日本語。英語説明のみの案内板を設置するべきであろう。

文法上などの問題点は見られない。表記上は、これまでの執筆者の提案と異なる部分が見られる。「表題」について、「国宝大浦天主堂」に平行する表題、“*Ooura-tenshudou [-cathedral](national treasure)*”とする。「おうら」、「おうら」と読まれるのを避けるため、“*Ooura*”とする。「天主堂」が“cathedral”を意味することを明示するため、“*Ooura-tenshudou [-cathedral]*”とする。現在目にする「大浦天主堂」の説明とするので、“Former”を削除し、“*Ooura-teshudou [-cathedral] (national treasure)*”とする。

原文1について、「日本で最古の教会です」は最重要と思われる。“extant”は、日本語説明中の「現存する」と同様、削除する。“*The Ooura-teshudou is the oldest Christian church in Japan.*”を第一文とし、「国宝指定や世界遺産登録については、“*It is designated as a national treasure, and was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018.*”とし、文を分ける。以上2文で、第一段落とする。

第二段落では、原文にはない「1865年3月17日の、東洋の奇跡と言われた潜伏キリシタンの発見の舞台になった」という重要な史実などについて、記述する。

第三段落において、原文1の「プティジャンの指導を下に建設され献堂式がおこなわれた」を2文で記す。「明治時代到来の約3年前」を補うためである。この段落で、原文3、原文4の、現在も継続している内容である「殉教した二十六聖人に捧げられており、殉教地の方向に向け建設されている」という内容を“*It is dedicated to the Twenty-six Martyrs of Japan who were executed on Nishizaka-no-oka (Nishizaka Hill) on February 26, 1597.*”、“*It is constructed, so that its facade faces the site of their martyrdom about four kilometers away.*”と、詳しく記述する。また、原文にはない、「建設当時は今より小さい木造であり、1879年に現在の西洋ゴシック建築に改築された」を加える。

第四段落では、原文にはない、見所である「入り口上にある銘板」、「尖塔アーチの窓枠」、「リヴ・ヴォールトの天井」、「ステンドグラスの窓」について記す。

第五段落では、原文5の「西坂の丘の位置」と「公式巡礼地とされている」を“*Nishizaka-no-oka*

mentioned above is located close to Nagasaki Station.”、“It is designated as an official site of Catholic Pilgrimage.”と2文に分ける。原文6は、「(西坂の丘には) 日本二十六聖人殉教地、...聖フィリッポ教会、および...記念館がある」と簡略化し、“There are the Site of the Twenty-six Martyrs of Japan, the St. Philip Church, a memorial church to the martyrs, and the Twenty-six Martyrs Museum which houses many relevant historical materials.”とする。重要事件である、「1981年2月のローマ法王の訪問」について加筆する。

説明に説得力をもたせるために、画像1のような写真や屋内のリブヴォールトの天井などの写真を添付することを提案する。

***Ooura-tenshudou* [-cathedral] (national treasure)** **—The Site Where the “Miracle of the Orient” Happened —**

The *Ooura-tenshudou* is the oldest Christian church in Japan. It is designated as a national treasure, and was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. It is known as the site where Hidden Christians and a missionary met for the first time in about two hundred years and caused a new phase of Christianity in Japan.

The *Ooura-tenshudou* is known as the site where on March 17, 1865, several Hidden Christians visited Petitjean to confess that they were ancestral Hidden Christians. This discovery of Hidden Christians was called the “Miracle of the Orient.” The space where the confession was made has been preserved, and the statue of the Virgin Mary with Jesus in Her arms on the altar remains extant.



The *Ooura-teshudou* was constructed following the guidance of Bishop Petitjean. Its dedication ceremony was held on February 5, 1865 (about three years before the beginning of the Meiji era). It is dedicated to the Twenty-six Martyrs of Japan who were executed on *Nishizaka-no-oka* (Nishizaka Hill) on February 26, 1597. It is constructed, so that its facade faces the site of their martyrdom about four kilometers away. It was originally a smaller semi-Western building. Around 1879 the building was extended and reconstructed in the Western-gothic style that can be seen today.

The inscription board put far above the entrance is written vertically in Chinese characters. (The inscription on the original building constructed in 1865 was written laterally, expecting hidden Christians to recognize the church.) Many tourists are attracted by the upper-pointed window frames on the exterior, and the rib-vaulted ceilings and beautiful stained-glass windows in the interior.

Nishizaka-no-oka mentioned above is located close to Nagasaki Station. It is designated as an official site of Catholic Pilgrimage. There we find the site of the Twenty-six Martyrs of Japan, the St. Philip Church, a memorial church to the martyrs, and a museum which houses many relevant historical materials. It was visited by the Supreme Pontiff in February, 1981.

「潜伏キリシタンであることの告白」という重要な史実、「銘板」など見所の説明を加えたこともあり「副題」を含め、347語となってしまった。

画像2の案内板に「西坂の丘」についての記述があるので、それを生かした。第3段落で「西坂の丘」について記しているの、それで十分とも思える。しかし、一般観光客にとって、「西坂の丘」の知名度はそれほど高くない。大浦天主堂の存在意義が日本二十六聖人殉教地にあるのだから、これについての記述は語数が増えてもしかたないと思われる。

国宝であると共に、大浦天主堂そのものが「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録されている。「東洋の奇跡」が起こった場所としての説明を加えざるを得ず、これまでの国宝としてだけの地位の時よりも説明が多くなると思われる。現状の「西坂の丘」の記述を残したことにもよる。

2.2 出津教会堂

4



画像4は「出津（しつ）教会堂」である。長崎駅から車で60分程の「外海（そとめ）地区」に「大野教会堂」と共に存在する。1882年にド・ロ神父により建設され、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に登録された「出津集落」の構成素である。2018年7月に外海地区が世界遺産登録されて以来、「大野教会堂」と併せて訪問する観光客が多い。

白亜の教会として知られている。「出津教会堂」を下ったところにある「出津救助院」で作られているパスタは有名である。

5



画像5の案内板は、「出津教会堂」や「出津救助院」などが存在する丘の登り口に見られる。「案内図 Guide Map」という地図入りの大きな一枚の案内板中に、画像7の「大野教会堂」のものと一緒に挙げられている。

日本語説明、英語説明共に不十分と感じられる。

予算が許せば、日本語説明、英語説明を現在のものより増やすべきであろう。

書き出しでは、双方ともに、日本語説明の書き出しは1文字分、英語説明では2文字分スペースが空けられている。英語説明では3文字分スペースを空けることを提案する。

日本語説明、英語説明共に、「表題」部分で「建設年度」、「材質」、「国による評価」が記されている。画像7の「大野教会堂」の案内板と同じである。

画像5の日本語説明と英語説明は以下の通りである。英文文末の赤い数字は執筆者による。

出津教会堂 1882 年建設、煉瓦造、国指定重要文化財

Shitsu Church Built: 1882, Construction: brick, Important Cultural Property of Japan

出津教会堂はド・ロ神父の設計・指導により建てられた教会で、当初は現在の半分程度の規模でしたが、1909年に2度目の増築で正面玄関部に、四角の鐘塔などが建ち、現状となりました。外海地区の強風を考慮した低平な外観と内部空間が特徴です。創建から増築まで一貫してド・ロ神父が関与した教会です。

The Shitsu Church was built according to the design and guidance of Father Marc de Rotz; it was at first only half its present size, but a second addition in 1909 added a square belltower to the front hall area, giving it its present dimensions.¹ It is characterized by its low and flat appearance and interior, built to take into account the strong winds of the Sotome area.² Father de Rotz was involved with the church from the laying of its foundation stone through its expansion.³

日本語説明について、福島(2019.1)に準じ、「出津教会堂」の文字サイズを大きくし太字にすることを提案する。段落始めは1文字分スペースを空けるべきである。

英語説明について、段落分けはしておらず、3文86語からなる。段落始めは3文字分スペースを空けるべきである。

日本語説明について、「出津教会堂」の記述順は、「表題」に相当するところで、「建設年度」、「材質」、「国による評価」が記されている。本文では、「歴史(ド・ロ神父による設計・指導)」→「歴史(建物の規模の変遷)」→「現状」→「ド・ロ神父の関わり方」が、段落分けせずに説明されている。英語説明も同様である。

日本語説明、英語説明共に、「ド・ロ神父の関わり方」は、「歴史(ド・ロ神父による設計・指導)」の部分で段落分けし、追加説明をすることを提案する。日本語説明の追加提案部分は赤字で記す。日本語、英語説明共に、4段落である。英語説明は「副題」を含め251語となった。

追加説明を多く加えた。英語説明は、日本語説明に平行させている。各英文の説明は省略する。英語説明の「表題」は、“*Shitsu-kyoukaidou* [-church]”とし、定冠詞を用いず、本文では“*the Shitsu-kyoukaidou*”と定冠詞を用いる。2.1と同様、綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島(2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、(2018.7)で挙げた提案に従う。

「国による評価、世界遺産の構成素としての評価」→「歴史」→「現状」→「周辺」と段落分けし、記述することを提案する。

画像4のような人物が入らない写真と屋内の写真を添付することを提案する。

出津教会堂 (重要文化財) —最初のド・ロ神父の偉業—

出津教会堂は、国の重要文化財に指定されており、2019年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された、「外海の出津集落」の構成素である。「出津集落」は、潜伏キリシタンが聖画像をひそかに拝み、教理書、教会暦を伝承して禁教期に信仰を続けた集落と

して知られています。

出津教会堂は、キリスト教解禁の後潜伏キリシタンが徐々に教会に復帰する中、ド・ロ神父の設計、指導で1882年に建設されました。

出津教会堂は、外海地区の強い風に耐えるため、低く平たい外観を特徴としています。当初は小さく、現在の半分程の大きさでした。現在、2つの塔を有する白漆喰の建造物です。祭壇上の5.5mの塔は、1892年に、玄関上の5.8mの鐘楼は、1910年に加えられました。最初の設計から2度の増築まですべてド・ロ神父によります。

出津教会堂を少し下ったところに、複数の職業訓練所からなる出津救助院があります。貧しい村民、特に女性に職業技術を身に着ける手助けをするために、やはりド・ロ神父が設立したものです。

***Shitsu-kyoukaidou* [-church] (important cultural property) —The First Great Achievement by Father Mare de-Rotz —**



The *Shitsu-kyoukaidou* is designated as an important cultural property, and among the components of *Shitsu-shuuraku* [-village], which was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. The village is known as the place where Hidden Christians secretly venerated the sacred image of Christ and handed down the Christian Doctrine and the church calendar for generations during the period of the ban on Christianity.

The original *Shitsu-kyoukaidou* was constructed following the design and guidance of Father Mare de-Rotz in 1882, in the historical context that hidden Christians gradually rejoined the Catholic Church after the lifting of the ban on Christianity

The *Shitsu-kyoukaidou* is characterized by its low and flat appearance to withstand the strong winds of the *Sotome* area. It was originally smaller, only half its present size. Now it is a white-washed building with two towers. The 5.5m tower on the roof over the altar was added in 1892, and the 5.8m bell tower above the entrance in 1910. The work from its original design and construction to the two enlargements were all done by Father Mare de-Rots.

A little way down the hillside from where the *Shitsu-kyoukaidou* is located, there is the *Shitsu-Kyuujoin* (Shitsu Aid Center) with a series of vocational facilities. It was also established by Father Mare de-Rotz for the purpose of helping poor villagers, especially women or girls, get vocational skills.

尚、出津教会堂の真横に、「国指定重要文化財 出津教会堂」という表題の日本語説明のみの案内板が見られた。「フランス人のマルコ・マリ・ド・ロによる設計・施工」以外、「その後の2度の改築箇所の説明」が多く、一般人には興味が持てない記述と思われた。

2. 3 大野教会堂

6



画像6は「大野教会堂」である。長崎市から車で60分程の「外海（そとめ）地区」に「出津教会堂」と共に存在する。「出津教会の巡回教会」とされていた通り、「出津教会堂」からは車に10分乗った後、徒歩10分程のところに存在する。「出津教会堂」が世界遺産登録された「出津集落」の構成素であることと同様、世界遺産登録された「大野集落」の構成素である。「出津教会堂」より小さく、「ド・ロ壁」という独特の壁を有することで知られている。

7



画像7の案内板は、少し離れた「出津教会堂」や「出津救助院」などが存在する丘の登り口に見られる。「案内図 Guide Map」という地図入りの大きな一枚の案内板中に「出津教会堂」のものと一緒に挙げられている。

「出津教会堂」のものと同様、これも、日本語説明、英語説明共に不十分と感じられる。

予算が許せば、日本語説明、英語説明を現在のものより増やすべきであろう。

書き出しでは、双方ともに、日本語説明の書き出しは1文字分、英語説明では2文字分スペースが空けられている。英語説明では3文字分スペースを空けることを提案する。

日本語説明、英語説明共に、「表題」部分で「建設年度」、「材質」、「評価」が記されている。画像5の「出津教会堂」の案内板と同じである。

画像7の日本語説明と英語説明は以下の通りである。英文文末の赤い数字は執筆者による。

大野教会堂 1893年建設、石造、国指定重要文化財

Ono Church Built: 1893, Construction: stone, Important Cultural Property of Japan

ド・ロ神父の設計・指導によって出津教会の巡回教会として建てられました。玄武岩を外壁にした和瓦葺きの建物です。赤土を水に溶かした濁液で砂と石灰を混ぜ、石材を積み上げるド・ロ壁を用い、信徒の奉仕で完成しました。山中にひっそりと立ち、風土に密着した素朴な雰囲気と雅趣があります。

This church, built as a satellite of the Shitsu Church, was constructed following the design and guidance of Father de Rotz, using basalt for the outer walls and Japanese kawara tiles for the roof.¹ The walls were built using Father de Rotz's unique method of wall construction using natural stones.² These “de Rotz walls” are

constructed from stones held together with a cement made by combining sand and lime in a thick liquid of clay dissolved in water.³ The church was completed through the devoted work of the believers.⁴

日本語説明について、福島(2019.1)に準じ、「大野教会堂」の文字サイズを大きくし太字にすることを提案する。段落始めは1文字分スペースを空けるべきである。

英語説明について、段落分けはしておらず、4文89語からなる。段落始めは3文字分スペースを空けるべきである。

日本語説明について、「大野教会堂」の記述順は、「表題」に相当するところで、「建設年度」、「材質」、「国による評価」が記されている。本文では、「歴史(巡回教会として、ド・ロ神父による設計・指導で建設)」→「歴史(「ド・ロ壁」の使用、信徒の奉仕)」→「現状(教会堂の印象)」と、段落分けせずに説明されている。

英語説明について、「表題」に相当するところは同じである。本文では、「歴史(巡回教会として、ド・ロ神父による設計・指導で建設)」→「歴史(「ド・ロ壁」の使用)」→「歴史(信徒の奉仕による建設)」と説明されており、日本語説明内の「現状(教会堂の印象)」については記されていない。「表題」は“*Oono-kyoukaidou [-church]*”とする。定冠詞はつけない。

原文1について、“the Shitsu Church”は、“*the Shitsu-kyoukaidou*”とする。2“*kawara*”は日本語であるので、“*kawara*”とイタリック体にする。

原文4について、「(大野教会堂の)信徒」を明示し、“*its believers*”とする。

日本語説明では、ド・ロ神父の設計・指導によること、特に、建物の材質など他の教会には見られない特性が挙げられている。教会堂周囲の雰囲気も挙げられている。

英語説明では、追加説明も含め、「外海の海を臨む山中にひっそりと立っています。平屋建ての小さな建物で、大野集落の自然に溶け込んだ素朴な雰囲気を醸し出しています。」の英語訳“*The church stands solitarily on the woody hillside commanding the view of Sotome seacoast. It is a small one-story building roofed with kawara tiles, and evokes the undecorated atmosphere associated with the natural features of Oono-shuuraku [-village].*”を補う

8



ところで、大野教会堂には、8の案内板も、見られた。韓国語、中国語の説明も記されている。

「歴史→建築構造」が日本語説明は細かく記されている。英語説明ではド・ロ神父の業績面に重点を置いている。日本語説明は建築の専門的な記述が多く、一般観光客には馴染めないであろう。一方英語説明は一般観光客向きに平明な記述である。

日本語説明では読み難い漢字には振り仮名が振られており、観光客に親切と言える。本稿では、(ふりがな)と、横に記す。

国指定重要文化財 大野教会堂

福島 一人：観光英語（16）：長崎市大浦天主堂、出津教会堂、大野教会堂、天草市崎津教会、島原市原城跡の
総合案内板の英語

指定年月日 平成 20 年 8 月 9 日

所有者 カトリック大野教区

明治 12 年（1879）に外海（そとめ）地区の主任司祭として赴任したフランス人マルク・マリ・ド・ロ神父は、当地における布教と福祉・殖産に多大な貢献をした。大野教会堂は、同神父が明治 26 年（1893）に建設した小規模な巡回教会である。

建物は、北側の会堂部と南側の司祭室部からなる。会堂部周りの 3 面は当地産の玄武岩（げんぶがん）割り石を漆喰（しっくい）モルタルで固めた特異な壁体（へきたい）（地元では神父に因（ちな）んで「ド・ロ壁」と呼ぶ）を築き、その上に様式のキングポスト（真東（しんつか））をもつ木造小屋組を架ける。側面の窓は上部を半円アーチ形の煉瓦（れんが）造とする。堂内は列柱のない一室構成で、現在の和風の棹縁（さおぶち）天井と板張りの床は後補（こうほ）とみられる。上記のド・ロ壁や様式小屋組のほか、通り抜けにした前廊（ぜんろう）部とそれを覆（おぎな）う変則的な寄棟（よせむね）屋根、軒下に出る梁（はり）の先端に施した彫り込み装飾など、ド・ロ神父の建築技法が随所に見られ、また地域の風土に密着した造形を示す。

A Nationally-Designated Important Cultural Property

Ohno Catholic Church

Date of Designation : 9 June 2008

Location : 2619, Shimo-Ohno-machi, Nagasaki City

Propriety : Roman Catholic Archdeaconate of Nagasaki

Ohno Catholic Church is a small church constructed in 1893 by the French priest Marc Marie de Rotz.¹ Father de Rotz took the post of parish priest in the Sotome district in 1879, and made great contributions towards the welfare of the area, the promotion of industry and the spread of Christianity.²

The building is laid out with its chapel on the north side and the priest's office on the south side.³ The walls around the chapel are built from local basalt and held together with cement plaster.⁴ These unique walls are known locally as "De Rotz walls." Above is a modal wooden roof, and the tops of the side windows feature arched brickwork.⁵ The inside of the chapel is a single room without pillars. Its current ceiling and wooden floor appear to have been constructed later than the rest of the building.⁶

The architectural skills of Father de Rotz can be seen everywhere, and the church's construction is closely linked to the local culture.⁷

Nagasaki City (March 2009)

本文は、3 段落 7 文 165 語からなる。第一段落の「ド・ロ神父の業績」以外、現在時制の「状態」用法で記されている。建築資材の説明が多く、一般人にはあまり興味が感じられないように思われた。

画像 8 の案内板の説明も参考にして、以下を提案する。追加説明を多く加えた。日本語説明英語説明共に 4 段落からなる。英語説明は「副題」を含め、216 語となった。追加説明が多く加えられている。追加提案部分を日本語説明では、赤字で記した。英語説明は、日本語説明に平行させてい

るので、各文の説明は省略する。英語説明の表題は、“*Oono-kyoukaidou [-church]*”とし、定冠詞を用いず、本文では“*the Oono-kyoukaidou*”と定冠詞を用いる。2.1と同様、綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島(2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、(2018.7)で挙げた提案に従う。

「国による評価、世界遺産の構成素としての評価」→「歴史」→「現状」→「雰囲気」と段落分けし、記述することを提案する。

画像6のような人物が入らない写真と屋内の写真を添付することを提案する。

大野教会堂（重要文化財）

—ド・ロ神父による独得の壁を有する協会—

大野教会堂は、国の重要文化財に指定されており、2019年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された、「外海の大野集落」の構成素である。大野集落は、神道（辻神社）の信仰を装いながら神社に自らの信仰の対象をひそかにまつて禁教期に信仰を続けた集落として知られています。

大野教会堂は、出津教会堂と同様、ド・ロ神父の設計、指導により1893年に建設されました。最初は、出津教会の巡回教会として建設されました。

赤土を水に溶かした濁液で砂と石灰を混ぜ、地元の玄武岩の石材を積み上げた、独特なド・ロ壁を特徴としています。

外海の海を臨む山中にひっそりと立っています。平屋建ての小さな建物で、大野集落の自然に溶け込んだ素朴な雰囲気を醸し出しています。

Oono-kyoukaidou [-church] (important cultural property)

—The Church with Characteristic Walls Invented by Father Mare de-Rotz —

The *Oono-kyoukaidou* is designated as an important cultural property, and among the components of *Oono-shuuraku [-village]*, which was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. The village is known as the site where Hidden Christians continued their faith during the period of the ban on Christianity, pretending to be the devotees of the *Tsuji-jinja* (-shinto shrine), and secretly enshrining their own object of worship in the shrine.



The *Oono-kyoukaidou*, like the *Shitsu-kyoukaidou*, was constructed following the design and guidance of Father Mare de-Rotz in 1893. It was originally constructed as the circuit church of the *Shitsu-kyoukaidou*. The church was completed through the devoted work of the believers.

It is characterized by its specific walls named “*Doro-*

kabe (De Rotz' walls).” The walls are built of local basalt the fragments of which were held together with cement plaster. The cement plaster was made by combining sand and lime with liquid of red clay dissolved in water.

The church stands solitarily on the woody hillside commanding the view of the *Sotome* seacoast. It is a small one-story-building roofed with *kawara* tiles, and evokes the undecorated atmosphere associated with the natural features of *Oono-shuuraku*.

2. 4 崎津教会

9



10



画像9の崎津教会には熊本駅からバスで約120分、本渡バスセンターでバスを乗り換え約100分で到着する。執筆者は35年程前に初めて訪れたが、周辺の建物とアンバランスであることに驚かされた。現在よりはるかに「漁村の中にそびえるゴシック教会」という印象であった。

画像10は、「崎津カトリック教会(天主堂)の由来記」という表題の案内板である。崎津教会の敷地内で見られた。日本語説明のみである。概略以下のことが縦書きで記述されている。「鉄川与助」の名前しか挙げられていない。「ハルブ神父」について述べられていない。本稿では、「現在の崎津教会は1934年に長崎県の建築家鉄川与助の設計で、ハルブ神父により再建されたものです。」とすることを提案する。

崎津教会の歴史は古く、もとは、1569年にアルメイダ神父により建てられ、天草のキリシタンが栄える中心となったこと、1638年の禁教令以後、激しい弾圧の元、キリスト教徒は隠れキリシタンとなったこと、7人の村人を先生として選び「水方(みずかた)」と呼び、洗礼の儀式などを行わせたこと、1872年にキリシタンの高札が撤廃され、240年ぶりに神父が崎津にもどってきたこと、崎津教会は3度立て直され、現在の教会は鉄川与助の施工によるゴシック建築である。

画像10の案内板の説明を参考にして、以下を提案する。追加説明を多く加えた。追加提案部分を日本語説明では、赤字で記した。英語説明は、日本語説明に平行させている。各文の説明は省略する。日本語説明英語説明共に4段落からなる。

「世界遺産の構成素としての評価」→「歴史」→「現状」→「周辺」と段落分けし、記述するこ

とを提案する。

英語説明は「副題」を含め、253語となった。英語説明の「表題」は、“*Sakitsu-kyoukai [-church]*”とし、定冠詞を用いず、本文では“*the Sakitsu-kyoukai*”と定冠詞を用いる。2.1と同様、綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島(2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、(2018.7)で挙げた提案に従う。

11



12



画像11は、崎津教会から徒歩5分程の「崎津諏訪神社」の参道、12は、徒歩15分程の岩盤上の「海上マリア像」である。

画像9、11、12のような写真を添付することを提案する。

崎津教会

— 漁村の中にそびえる西洋ゴシック教会 —

崎津教会は、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された、「天草の崎津集落」の構成要素です。崎津集落は、身近なものを信心具として代用し、漁村特有の形態で禁教期に信仰を続けた集落として知られています。キリスト教が、神道と共存した集落としても知られています。

崎津教会は、最初、現在の旧修道院が建っている場所に1883年に建てられました。現在の崎津教会は1934年に長崎県の建築家鉄川与助の設計で、ハルブ神父により再建されたものです。

西洋ゴシック調の建造物で海の近くに建てられており、「海の教会」と呼ぶにふさわしいです。祭壇の前は畳敷きであり、西洋文化と日本文化の混交が見られます。

周りの集落内では、崎津集落特有の「トウヤ」と呼ばれる細い路地、「カケ」と呼ばれる海に突き出た地元漁師の作業場があります。徒歩5分にある崎津諏訪神社、徒歩15分にある海にせりだした岩盤上のマリア像などが見どころです。

Sakitsu-kyoukai [-church]

— Western Gothic Church Towering in the Fishing Village —

The *Sakitsu-kyoukai* is among the components of *Sskitsu-shuuraku* [-village], which was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. The village is known as the site where Hidden Christians substituted everyday items used in their daily life and work for Christian devotional tools and continued their faith in a way specific to a “fishing village” during the period of ban on Christianity. It is also known as the village where Christianity coexisted with Shinto.

The original *Sakitsu-kyoukai* was constructed on the site where the old religious house stands in 1883. The present church was rebuilt by Father Halbou under the design of Tetsukawa Yosuke, an architect in Nagasaki Prefecture, in 1934. It is constructed on the site where the village headmaster’s residence once stood.

Sakitsu-kyoukai towering in the fishing village



The Western Gothic architecture stands out in the fishing village facing the sea, and may be properly called the “Church on the sea.” As the front of the altar in the chapel is laid with *tatami* mats, we can see the combination of Western culture and Japanese culture.

In the neighborhood there are “*Touya*”, narrow alleys, and “*Kake*”, working areas for local fishermen which protrude into the sea, specific to the *Sakitsu-shuuraku*. There are two places worth seeing, the *Sakitsu-suwa-jinja* [-shrine] within a 5-minute walk, and the large

statue of the Virgin Mary on the bedrock rising from the sea which is within a 15-minute walk.

Sakitsu-suwa-jinja



Virgin Mary on the bedrock



以下は、崎津集落の「具体的な信仰形態」である。「崎津教会」内に、2段階、スペースを空けて5段落目に加えることも考えられる。しかし、「崎津集落」という表題の案内板に委ねるべきものであろう。

崎津集落では、禁教期に、キリシタンであることを隠すために、漁村特有の信仰形態を保持しま

した。日本の伝統的な豊漁の神である大黒天や恵比寿神をゼウスと考え崇めたり、アワビの貝殻の模様をマリアに見立てたり、真珠貝の貝殻でメダルを作ったりしました。村人の中から選んだ7名の「水方（みずかた）」という指導役に従って、信仰を続けました。

During the ban on Christianity, Hidden Christians nurtured their faith in several ways so that they were not suspected of being Christians. They revered *Daikokuten* and *Ebisu*, the Japanese traditional deities of good fish catches, as Deus. They adored abalone shells whose inner patterns could be recognized as the Virgin Mary. They made medals of pearl shells. Following the guidance of their religious leaders named “*Mizukata*”, who were chosen among the villagers, they continued their faith.

2.5 原城跡

13



14



画像13の「原城跡」は、島原鉄道島原駅前から島原鉄道バスで約90分、「原城前」で下車、徒歩約15分のところに存在する。宣教師不在の下に潜伏キリシタンが自らの信仰を密かに継続するきっかけをもたらした、と言われる「島原・天草の乱」の舞台として知られている。

画像14の案内板は、「原城跡」との無料往復バスサービスがある、「原城温泉真砂」の建物の前で見られる。日本語説明、英語説明共に不十分と感じられる。予算が許せば、日本語説明、英語説明を現在のものより増やすべきであろう。

書き出しは、日本語説明、英語説明共に、スペースが空けられていない。日本語説明では1文字分、英語説明では3文字分スペースを空けることを提案する。

画像14の日本語説明と英語説明は以下の通りである。英文文末の赤い数字は執筆者による。

国指定史跡 原城跡 Remains of Hara Castle

昭和13年〈1938〉5月30日指定 designated as a National Historical Site since May 30th 1938

原城跡は禁教初期に有馬領のキリシタンが蜂起した「島原・天草一揆」の舞台となった城跡である。一揆は全国的に禁教政策が推進される過程で起こった出来事であり、江戸幕府に大きな衝撃を与えた。それは2世紀を超える海禁体制を確立する契機となるとともに、宣教師不在の下に潜伏キリシ

タンが長期間にわたって自らの信仰を密かに継続する重要な契機をもたらした。

The Remains of Hara Castle are the ruins of the castle that became stage of the “Shimabara-Amakusa Rebellion”, during which Catholics of the Arima domain took up arms in the early period of the nationwide ban on Christianity.¹ The rebellion had a great impact on the Tokugawa Shogunate and triggered the establishment of Japan’s national seclusion policy for over two centuries.² Under this seclusion policy and the subsequent absence of missionaries, Catholics in Nagasaki region were left to maintain their faith and small religious communities by themselves.³

日本語説明について、福島 (2019.1) に準じ、「原城跡」の文字サイズを大きくし太字にすることを提案する。

英語説明について、段落分けをしておらず、3文88語からなる。

「原城跡」の記述順は、まず、「国による評価」を挙げ、本文では、「歴史（島原・天草一揆の舞台となった）」「歴史（島原・天草一揆の歴史的意義）」が、段落分けせずに説明されている。英語説明も段落分けしていない。

画像8の案内板の説明も参考にして、提案を行う。英語説明は、日本語説明に平行させている。従って、各英文の説明は省略する。日本語説明英語説明共に4段落からなる。英語説明は副題を含め、318語となった。最近の発掘調査結果や、本丸跡に見られる天草四郎像、十字架、崖上の3体の像など、追加説明を加えたことによる。追加提案部分は、日本語説明文中では赤字で記す。英語説明の表題は、“*Hara-jou-ato (remains of the Hara Castle)*”とし、定冠詞を用いず、本文では“*the Hara-jou-ato*”と定冠詞を用いる。2.1と同様、綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島 (2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、(2018.7)で挙げた提案に従う。

15



画像15は、本丸南東の崖縁に見られる3体の地蔵に似た像である。天草地方を眺めている。左が宣教師、中央が天草四郎、右が四郎の恋人と思われる。本丸には、大きなコンクリート製の十字架、天草四郎像があり、これら3体の像を見落とす観光客が多い。

「国による評価、世界遺産としての評価」→「歴史」→「発掘結果」→「見どころ」と段落分けし、記述することを提案する。

画像13、15のような写真を添付することを提案する。

原城跡（国指定史跡） ——「島原・天草一揆」の舞台——

原城跡は、1938年5月に国指定史跡に指定され、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録されました。原城跡は、海禁体制の確立につながり、潜伏キリシタンが自らのかたちで信仰を続けるきっかけとなった場所として知られています。

原城跡は禁教初期に有馬領のキリシタンが蜂起した「島原・天草一揆」の舞台となった城跡です。一揆は全国的に禁教政策が推進される過程で起こった出来事であり、江戸幕府に大きな衝撃を与えました。それは、一揆軍の作戦に西洋の軍力が感じられ、その驚くべき勢力に脅威を感じたからです。2世紀を超える海禁体制を確立する契機となるとともに、宣教師不在の下に潜伏キリシタンが長期間にわたって自らの信仰を密かに継続する重要な契機をもたらしました。

1992年から続く本丸の発掘調査では、多くのメダルや十字架が発掘されました。それらは、潜伏キリシタンがキリスト教の伝来以来、代々受け継いできたメダル、そして銃弾の材料で作った十字架でした。多くの人骨も発掘されました。この発掘により、原城跡に籠城していた人々が軍事面、生活面で組織立ったかたちで、一揆に加わっていたことが分かりました。

原城跡に現存するものは、いくつかの郭跡、石垣の名残のみです。本丸には、天草四郎像、石造の大きな十字架があります。海を臨む崖上には、天草の方角を眺める3体の地蔵に似た小さな石像が置かれています。

***Hara-jou-ato* (remains of the Hara Castle) —The Stage of the “Shimabara-Amakusa Rebellion” —**

Hara-jou-ato



Three statues looking in the direction of the Amakusa Region



The *Hara-jou-ato* was designated as a national historical site in May, 1938, and was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. It is known as the site where happened the rebellion which led to Japan’s national seclusion policy, and caused Hidden Christians to continue their faith in their own secretive ways.

The *Hara-jou-ato* became the stage of the “Shimabara-Amakusa Rebellion”, in which Catholics of the Arima domain took up arms in the early period of the nationwide ban on Christianity. The rebellion had a great impact on the Tokugawa Shogunate, who feared the western military power in the action of the Christians and the local people, and considered it as an overthrow threat to their national governing power. The rebellion led to the establishment of Japan’s national seclusion policy for over two centuries. Under this seclusion policy and the subsequent absence of missionaries, Catholics in the Nagasaki region were obliged to maintain their faith and small religious communities by themselves.

The archaeological excavation at the main bailey of the *Hara-jou-ato* has continued since 1992. It revealed numerous possessions of the killed Christians, such as the medals that had been handed down for generations and the crucifixes made of the materials for bullets. Numerous human bones were also found. The excavation made it clear that the people in the castle had taken part in an organized manner in the phases of both military affairs and daily living.

There is nothing extant but three baileys and the remnants of stone walls. On the main bailey you will find the statue of Amakusa Shirou and the large cross built in concrete. On the edge of cliff in the east of the main bailey you can find three small statues, resembling *jizo*, looking in the direction of the Amakusa region across the sea.

3. おわりに

以上、長崎市の「大浦天主堂」、「出津教会堂」、「大野教会堂」、天草市の「崎津教会」、島原市の「原城跡」の「総合案内板」について提案を行った。これらは、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、2018年7月に世界遺産登録されたもの、あるいは、その構成要素である。総じて、京都の世界遺産登録されている観光名所などと比べ、「説明が不十分」と感じられた。

「総合案内板」とは、当該観光地について包括的に概略を説明する案内板である。まず、日本語説明を提案し、それに平行する英語説明の提案を行った。リーフレットやホームページの記述と異なり、特に簡潔明瞭が要求され、一般人の読む気を失くさないように、理想的には250語程度に抑えるべきと、福島(2017.9)などで提案してきた。

今回調査した、当該観光地の案内板は、いずれも記述量が少ないと思われた。特に、「崎津教会」については、「崎津教会」を表題とする英語案内板が見られなかった。

当該観光地のリーフレットや、「大浦天主堂」横の「旧羅典神学校」内に見られた案内板などを参考に加筆を試みた。特に、崎津資料館みなと屋(2017.8.1)は、本稿で挙げたすべての観光地について、それらが世界遺産登録された理由を日本語で簡略に記していた。これらを参考に、本稿で提案した説明文の、第一段落「...は...の場所として知られている。」、「...is known as the site where...」を作成した。

記述順について、概略、「国の評価、世界遺産、あるいは、世界遺産の構成要素としての評価」→「歴史」→「現状」→「周辺」などと段落分けし、記述することを提案した。最初の「...評価」について、世界遺産評価については、当該観光地自体が世界遺産登録されているものは、段落を分け、第二段落で登録された理由を説明し、当該観光地が世界遺産登録された集落の構成要素である場合は、第一段落内で集落が世界遺産登録された理由を説明した。

「大浦天主堂」の英語説明の語数は、副題を含め、347語となった。画像2の英語説明は103語であるが、現地への入り口付近で見られる、当該観光地を表題としている案内板の中では、最も記述量が多かった。2018年7月に世界遺産登録されたものの代表格と思えることから、「信徒発見」や「建造物の見どころ」など追加説明が多くなった。

「出津教会堂」について、副題を含め、251語となった。日本語説明、英語説明共に、現在のものより増やすことを提案した。日本語説明と英語説明を分けることを提案した。

「大野教会堂」については、副題を含め、216語となった。「出津教会堂」に合わせ、日本語説明、英語説明を分け、現在のものより増やすことを提案した。

「崎津教会」については、副題を含め、**253**語となった。「崎津教会」を表題とする案内板が日本語説明しか見られないので、英語説明を提案した。特に、「周辺の見所」を挙げた。

「原城跡」については、副題を含め、**318**語となった。宣教師不在の下に潜伏キリシタンが自らの信仰を密かに継続するきっかけをもたらした、という「島原・天草の乱」の意義や、を徳川幕府が恐れた理由を追加記述したこと、新しい発掘結果についての記述が加わったことなどによる。

以上本稿で提案したものは、「総合案内板」であるので、現在見られるものより、日本語説明、英語説明の記述量が多くなった。案内板のサイズの拡大や、新設が必要となるであろう。当然、各観光地の「予算」の問題が関係してくるであろう。

本稿執筆にあたり、これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。感謝したい。

註

1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことや目立つことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどとは、異なり、語数を抑えなければならぬ。

2) NHK 総合テレビジョン 〈2018.10.3 放送〉

3) 2015年8月と展示内容が異なる。世界遺産登録後追加されたものが多い。

4) 「潜伏キリシタンが日本の伝統宗教や一般社会と共生しながら自らの信仰を続けてきた伝統を終わらせるきっかけとなった場所」という「大浦天主堂」の意義を明示している。

参考文献

天草市観光文化部世界遺産推進室 (2018.3) 『天草の崎津集落』(パンフレット) 天草市河浦町: 天草市観光文化部河浦支所

ブリタニカ・ジャパン編 (2013) 『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京: ブリタニカ・ジャパン

福島一人 (2011.1) 「観光英語 (1): 国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部

—— (2011.7) 「観光英語 (2): 国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部

—— (2012.7) 「観光英語 (3): 重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部

—— (2013.1) 「観光英語 (4): 重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部

—— (2014.1) 「観光英語 (5): 重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部

福島 一人：観光英語 (16)：長崎市大浦天主堂、出津教会堂、大野教会堂、天草市崎津教会、島原市原城跡の総合案内板の英語

- (2014.7)「観光英語 (6)：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.1)「観光英語 (7)：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.7)「観光英語 (8)：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.9)「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第21号、東京：日本実用英語学会
- (2016.1)「観光英語 (9)：神奈川県の観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第54号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2016.7)「観光英語 (10)：神奈川県と静岡県観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第55号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.1)「観光英語 (11)：京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第56号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.7)「観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語」『情報研究』第57号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.9)「国内観光地の総合案内板の英語についての問題点：文法、記述順を中心に」『日本実用英語学会論叢』第23号、東京：日本実用英語学会
- (2018.1)「観光英語 (13)：観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘に見られる案内板の英語」『情報研究』第58号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2018.7)「観光英語 (14)：鳥根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語」『情報研究』第59号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2019.1)「観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語」『情報研究』第60号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- 市川繁治郎他編 (福島一人他執筆) (1995)『新編英和活用大辞典』、東京：研究社
- 九州観光情報サイト「九州旅ネット」、「九州の世界遺産」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(オンライン)、入手先 https://www.welcomekyushu.jp/world_heritage/spots/christian (2018.6.1 参照)
- NHK 総合テレビジョン (2018.10.3 放送)「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」『歴史秘話ヒストリア』、東京：日本放送協会
- 新村出編 (2008)『広辞苑』第6版、東京：岩波書店
- 崎津資料館みなと屋 (2017.8.1)『瓦版第2号』(リーフレット) 天草市河浦町：崎津資料館みなと屋
- 篠田義明 (1989)『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社
- (2014)『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』東京：南雲堂
- 竹林 滋他編 (2002)『研究社 新英和大辞典』第6版、東京：研究社
- 渡邊敏郎他編 (2003)『研究社 新和英大辞典』第5版、東京：研究社